

令和5年度
学校関係者評価報告書

学校法人佐藤栄学園
専門学校埼玉自動車大学校

1. 目的

学校関係者評価は以下のことを目的として実施するものとする。

- ①自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。
- ③学校は評価結果を改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的に改善を図る。

2. 学校関係者評価委員

井上 一郎	保護者	埼玉自動車大学校親交会	会長（委員長）
黒土 明穂	保護者	埼玉自動車大学校親交会	副会長
篠田 陽子	保護者	埼玉自動車大学校親交会	副会長
細井 和弘	第27期卒業生	株式会社K-STAGE	代表取締役
原島 政幸		有限会社CarBodyShop Vicky	代表取締役

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

日時：令和6年6月1日（第1回委員会）

令和6年6月14日（第2回委員会・書面会議にて実施）

4. 学校関係者評価委員会報告（評価する点、改善点、要望等）

（1）教育理念・目的・育成人材像

- ・「人間是宝」による人間教育、校訓「徳技知」による職業教育により、教育理念が学生にも浸透している。保護者の立場からも本校の教育内容に満足している。
- ・急激に変化する社会構造や自動車業界の技術革新を視野に入れ、積極的に教育のICT化を進めるなど、社会のニーズを踏まえたビジョンを描いていることが分かる。

(2) 学校運営

- ・アフターコロナで従前の教育計画にほとんど戻っており、学生の楽しみにしている行事が復活することはよいことである。

(3) 教育活動

- ・令和7年度に変更となる整備士資格制度(二級自動車整備科カリキュラム)における、学校や職員の対応を内外へPRしたほうがよいのではないかと。
- ・オープンキャンパスや授業参観に来ると、あいさつや身だしなみなど学生の雰囲気がとても良い。目的意識をしっかりと持った学生が多く、普段の指導が行き届いている。

(4) 学習成果

- ・国家試験結果をしっかりとPRしたほうがよいのではないかと。
- ・退学者が増加傾向にあるが、休退学者を減らすために、今年度より採用しているスクールカウンセラーの制度をうまく利用してほしい。
- ・9倍を超える有効求人倍率があり、就職率100%を維持しているのはありがたい。企業に就職しても本校の卒業生は離職率が低く、社会人としての心構えができている点が評価できる。

(5) 学生支援

- ・就職や学習・生活に関する学生相談や課外活動の指導、奨学金など経済的な支援体制も教員が丁寧に対応している。
- ・学生一人一人をしっかりと見てくれる教職員の対応の良さがある。
- ・教職員が熱心で、学生にフレンドリーに対応してくれるのが良い。
- ・遅刻や欠席を減らすように担任が親身になって学生指導に当たっており、保護者ともよく連携してくれるので安心できる。

(6) 教育環境

- ・怪我等のリスクを鑑みて、実習作業は厳しく指導し、座学は楽しく授業を進める等、メリハリのある授業を展開しており、しっかりと工夫されている。

(7) 学生の受入れ募集

- ・学校案内パンフレットは毎年よくできている。是非、高校や企業などいろいろな場所でパンフレットを目にできるように工夫してほしい。
- ・学生募集は今後も益々厳しくなってくることが予想される。県外から入学している学生もいることから、今後も学校の特色をしっかりとアピールすることで学生募集に繋げてもらいたい。
- ・自動車整備士の必要性や魅力をもっと発信していった方がよい。

- ・民間工場等と比較しても素晴らしい設備を有する学校である。当時と比較しても格段の差があることから、そういった設備等についてもSNS等を活用しPRしていったほうがよい。
- ・企業が発信するイベント等をもっと学校に取り入れるべきである。広告費も抑制でき、相互にアピールすることもできるのではないかな。

(8) 財務

- ・少子化が進む中で学生募集はますます厳しくなることが予想される。財務基盤の見直しを図るとともに、物価高からモノの値段が高騰しているので経費削減を図る努力を進めてもらえるとよい。

(9) 法令等の遵守

- ・整備士に最も求められる「誠実」をモットーに教職員は法令を遵守し、適切な学校経営がなされている。
- ・学校自己評価や公開授業等で情報公開に努め、引き続き開かれた学校づくりを進めてほしい。

(10) その他（意見・改善点等）

- ・高校生対象の校外イベントを増やし、告知方法も別途検討してはどうか。
- ・学校行事またはイベントをできるだけ早く告知することで、学生の参加率を向上させられるのではないかな。
- ・以前実施していた「アメリカ研修旅行」が実施されなくなってしまったのは残念である。人生でもなかなか体験できない貴重な経験であった。任意での旅行積立は行っているが、実施直前になって学費に充てる家庭も多く、ユタバレー大学への留学研修参加者も減少してきているのが現状である。
- ・女子学生や留学生の入学者が増加していることには大変驚いている。
- ・学生が就職した後の離職率を減らすにはどのようにすればよいか。現在の社会情勢により、賃金や休暇の条件を改善している企業が多くなっているため期待は持てるのではないかな。
- ・板金塗装の就職希望者を増やすためにはどうすればよいか。現在、車体整備科、カスタムボディ科に進学する学生は、学科進学する前に就職活動を行っているのが現状であるため、板金塗装の職業理解を深める前に内定してしまっている。板金塗装関係者（卒業生等）が在学生へデモンストレーション等を披露し、学生の興味を引き上げる等を実施してみてはどうか。

以上